

シンポジウム：細胞アッセイ技術の現状と将来

2018 年 1 月 19 日(金)

アステラス製薬株式会社つくば研究センター（茨城県つくば市御幸が丘 21）

主催：細胞アッセイ研究会

共催：公益社団法人化学工学会バイオ部会（予定）

国立大学法人東京大学生産技術研究所（予定）

独立行政法人産業技術総合研究所創薬基盤研究部門（予定）

アステラス製薬株式会社（予定）

協賛：一般財団法人バイオインダストリー協会（予定）

一般社団法人化学とマイクロ・ナノシステム学会（予定）

NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議（予定）

日本動物実験代替法学会（予定）

特定非営利活動法人エイチ・エー・ビー研究機構（予定）

公益社団法人日本生物工学会セルプロセッシング計測評価研究部会（予定）

日本薬物動態学会（予定）

情報計算化学生物学会（予定）

近年、Microphysiological System (MPS)に対する世界中の関心は高く、米国 NIH-NCATS や我が国の AMED では、今秋から、MPS の実用化(特に創薬への応用)を目指した大型プロジェクトを開始しました。一方で、今年の夏、Boston で開催されました MPS に関する 2 回の研究会では、MPS の次の目標は疾患モデルであることがはっきりと示されました。

MPS で疾患モデルを実現するためには、病態に関わる複数の臓器の機能を発現させ、連関させる技術が必要不可欠になります。

このような背景から、本年度は「病態解明のための臓器連関モデルの意義」をテーマとして、基調講演を企画しました。また、例年通り細胞アッセイ技術全般に関する一般研究発表をポスター形式で募集いたします。

沢山の皆様の研究発表のお申し込み、ご参加をお待ち申し上げます。

組織委員

安西 尚彦（千葉大学医学部薬理学教室）

石田 誠一（国立医薬品食品衛生研究所）

井上 則子（東和薬品）

加藤 将夫（金沢大学医薬保健研究域）

柿木 基治（エーザイ）

金森 敏幸（産業技術総合研究所）

清川 順平（中外製薬）

小島 肇（国立医薬品食品衛生研究所）

小林 英毅（第一三共）

斎藤 幸一（住友化学）

酒井 康行（東京大学大学院工学系研究科）

薩川 正広（科研製薬）

清水 秀忠（日本ベーリンガー・インゲルハイム）

杉浦 慎治（産業技術総合研究所）

平林 英樹 (武田薬品工業)
山田 泰弘 (日本薬科大学)
山下 伸二 (摂南大学薬学部)

プログラム(演題は仮題)

- 9:30 受付開始
- 10:00 MPS が今後目指すべき方向性
金森 敏幸 (産業技術総合研究所)
- 10:30 腎臓を中心とした臓器連関モデルの必要性:生理学の立場から
安西 尚彦 (千葉大学医学部薬理学教室)
- 11:10 肝星細胞学:類洞壁から眺める肝臓の炎症・線維化・発がん
河田 則文 (大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵病態内科学)
- 11:50 腸・腎臓とミトコンドリア
阿部 高明 (東北大学大学院医工学研究科生体再生医工学講座)
- ～ 昼食 ～
- 13:30 臓器連関による恒常性の維持と心不全・糖尿病
真鍋 一郎 (千葉大学大学院医学研究院長寿医学講座)
- 14:10 生理学的薬物動態 (PBPK)モデルから見た臓器連関モデルへの期待
山崎 浩史 (昭和薬科大学薬物動態学研究室)
- 15:00 ポスター発表
- 17:10 懇親会

一般演題募集

ポスター発表で募集いたします。発表申し込みは、タイトル、全発表者名と所属、連絡担当者名と e-mail アドレスをご記載の上、メールで下記問い合わせ先までお願いします。締め切りは 11 月 24 日(金)です。また、12 月 8 日(金)までに要旨(A4 で 1 枚、カメラレディ)を提出して頂きます。

参加申し込み

当日参加はお受けできません。全ての方に、事前申し込みをお願いします。一般演題に申し込んだ方も、参加申し込みが必要となります。参加者のお名前、ご所属、e-mail アドレス、ご住所および懇親会参加の有無を記載し、メールで下記問い合わせ先までお申し込み下さい。折り返し、お支払い方法等をお知らせ致します。なお、会場の都合で、申し込み順、定員 250 名とさせていただきます。

参加費 5,000 円
懇親会 4,000 円

問い合わせ先

国立研究開発法人産業技術総合研究所創薬基盤研究部門
金森敏幸
TEL 029-861-6286
e-mail: t.kanamori@aist.go.jp